

**Microsoft System Center 2012 Virtual  
Machine Manager 用 Dell Lifecycle Controller  
Integration バージョン 1.1  
インストールガイド**



# メモ、注意、警告

-  **メモ:** メモでは、コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意:** 注意では、ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。
-  **警告:** 警告では、物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

**著作権 © 2009 - 2015 Dell Inc. 無断転載を禁じます禁じます。** この製品は、米国および国際著作権法、ならびに米国および国際知的財産法で保護されています。Dell™、および Dell のロゴは、米国および / またはその他管轄区域における Dell Inc. の商標です。本書で使用されているその他すべての商標および名称は、各社の商標である場合があります。

2015 - 08

Rev. A00

# 目次

<b>1 Microsoft System Center 2012 Virtual Machine Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration について.....</b>	<b>4</b>
<b>2 DLCI のコンポーネント.....</b>	<b>5</b>
ユーザー – 役割と特権.....	6
アプライアンスで使用されるポート.....	6
<b>3 アプライアンスのインストール.....</b>	<b>8</b>
管理システムのシステム要件.....	8
アプライアンスのダウンロード.....	9
アプライアンスのセットアップ.....	9
統合ゲートウェイの変更.....	11
統合ゲートウェイの修復.....	12
SC2012 VMM と統合ゲートウェイの資格情報の変更.....	12
<b>4 SC2012 VMM 用 DLCI のアップグレード.....</b>	<b>13</b>
Service Pack のアップデートについて.....	13
アプライアンス Service Pack およびインフラ Service Pack のダウンロード.....	13
Service Pack アップデートの前提条件.....	14
Service Pack アップデートのリポジトリへのコピー.....	14
リポジトリ URL 情報の入力.....	14
Service Pack アップデートのインストール.....	14
<b>5 アプライアンスのアンインストール.....</b>	<b>16</b>
統合ゲートウェイの削除.....	16
アプライアンスの削除.....	16
その他のアンインストール手順.....	16
アプライアンス固有の RunAsAccounts の削除.....	16
DLCI アプリケーションプロファイルの削除.....	17
<b>6 デルサポートサイトからの文書へのアクセス.....</b>	<b>18</b>

# Microsoft System Center 2012 Virtual Machine Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration について

Microsoft System Center 2012 Virtual Machine Manager (SC2012 VMM) 用 Dell Lifecycle Controller Integration (DLCI) は、ハードウェアの設定を行うことができるほか、ファームウェアアップデートプロセスを簡素化および改善し、さらにデルサーバーで Hyper-V を導入するためのソリューションを提供します。このプラグインは、Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) のリモート導入機能と Lifecycle Controller を使用したシームレスな使用感を実現しており、Microsoft System Center コンソールを介した仮想化環境の管理に利用することができるという価値を提供します。

Microsoft System Center Virtual Machine Manager についての情報は、Microsoft の文書を参照してください。

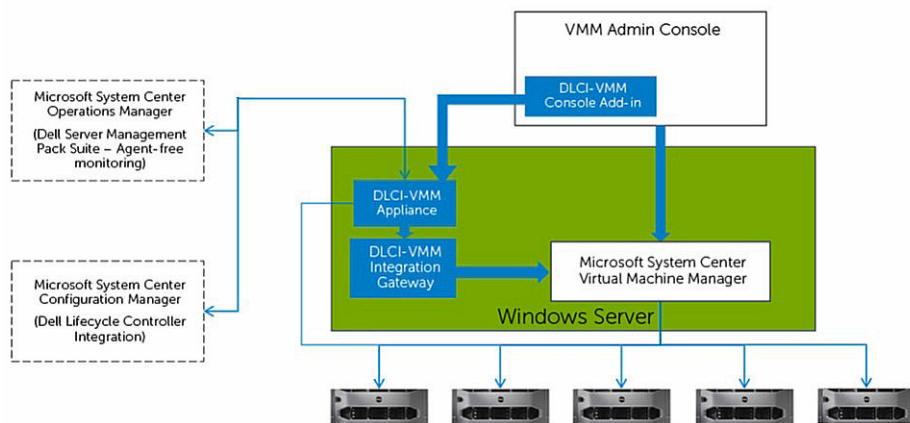
この文書には、DLCI アプライアンスのインストールに必要な前提条件と対応ソフトウェアに関する情報が記載されています。DLCI アプライアンスのリリース日から長期間経過した後でこのバージョンの DLCI アプライアンスをインストールしている場合は、[dell.com/support/home](http://dell.com/support/home) で本書のアップデートバージョンの有無をチェックしてください。

## DLCI のコンポーネント

DLCI アプライアンスのコンポーネントは次のとおりです。

- Dell Lifecycle Controller Integration (DLCI) 仮想マシン。アプライアンスとも呼ばれます。
  - アプライアンスは CentOS をベースとした仮想マシンとして、Hyper-V 上でホストされます。
  - アプライアンスは Web Services - Management (WSMAN) を使用して iDRAC を介して Dell サーバーと対話します。
  - DLCI 管理ポータルで、アプライアンスを管理することができます。また、すべてのジョブ、すべてのユーザーからのアクティビティログおよびライセンス情報を表示することもできます。
- Microsoft System Center 2012 Virtual Machine Manager (SC2012 VMM) 用 Dell Lifecycle Controller Integration (DLCI) 統合ゲートウェイ。統合ゲートウェイ (IG) とも呼ばれます。
  - 統合ゲートウェイは、Windows サーバーにインストールされた一連の Web サービスで、SC2012 VMM PowerShell コマンドとアプライアンス向けの WinPE カスタマイズを実行します。
- Microsoft System Center 2012 Virtual Machine Manager (SC2012 VMM) 用 Dell Lifecycle Controller Integration (DLCI) コンソールアドイン。DCLI コンソールアドインとも呼ばれます。
  - コンソールのアドインで、検出、プロファイルの作成、および (LC ドライバインジェクションとファームウェアのアップデートの有り、無しでの) オペレーティングシステムの展開、などのアプライアンスベースのタスクを実行できます。

コンポーネントおよびその他のソフトウェアでの DLCI アプライアンスセットアップ。



## ユーザー — 役割と特権

DCLI アプライアンスコンポーネントおよびその他ソフトウェアによって必要とされるユーザーは次のとおりです。

表 1. : 役割と特権

Role (役割)	DCLI アプライアンス管理者	統合ゲートウェイサービスアカウント	統合ゲートウェイコントリビュータアカウント
特性	アプライアンス固有のユーザー (管理者)	このアカウントの特性は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>有効な &lt;ドメイン&gt; ユーザー。</li> <li>統合ゲートウェイサーバーにアクセスするためのローカル管理者権限</li> <li>VMM 管理者権限</li> </ul>	統合ゲートウェイサーバーにアクセスするためのローカル管理者権限を持つ有効な <ドメイン> ユーザー。
DCLI アプライアンスコンポーネントアクセス	管理ポータル DCLI アプライアンス	統合ゲートウェイ	
機能 (明示的に記載されていない限り、リストされているものの作成、表示、編集、削除するためのアクセス権を持つ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>セットアップと設定</li> <li>アクティビティログ</li> <li>統合ゲートウェイのダウンロード</li> <li>コンソールアドインのダウンロード</li> <li>ライセンスの詳細</li> <li>DCLI アプライアンスユーザーのすべての機能</li> </ul>	(可視的な機能なし)	

## アプライアンスで使用されるポート

これらのポートは、アプライアンスのさまざまなコンポーネントによって使用されます。

ファイアウォールの例外リストにこれらのポートを追加してください。

表 2. アプライアンスで使用されるポート

詳細	プロトコル	デフォルトポート	ポート設定の変更箇所
iDRAC または OMSA 通信	WSMAN	443	設定不可能
FTP コマンドクライアント	FTP	21	設定不可能
DNS クライアント	DNS	53	設定不可能

詳細	プロトコル	デフォルトポート	ポート設定の変更箇所
Dell オンラインデータアクセス	HTTP	80	設定不可能
管理コンソール	HTTP	80	設定不可能
HTTPS サーバー	HTTPS	443	設定不可能
PostgreSQL	Postgres	5432	設定不可能
統合ゲートウェイ	HTTPS	8455	統合ゲートウェイのインストール中に設定可能。
自動検出	HTTPS	4433	設定不可能
iDRAC – これらのポートは、iDRAC が統合ゲートウェイによって作成された CIFS 共有にアクセスできるように有効化されています。	HTTPS	135 から 139、および 445	設定不可能

## アプライアンスのインストール

アプライアンスをインストールするには、次の手順を実行します。

1. システム要件をチェックして確認します。詳細に関しては[管理システムのシステム要件](#)を参照してください。
2. アプライアンスをダウンロードします。詳細に関しては[アプライアンスのダウンロード](#)を参照してください。
3. アプライアンスをセットアップします。詳細に関しては[アプライアンスのセットアップ](#)を参照してください。

### 管理システムのシステム要件

管理システムとは、アプライアンスとそのコンポーネントがインストールされているシステムです。

- アプライアンスの要件：
  - Windows Server 2012 R2 または Windows Server 2012 がインストールされており、Hyper-V 役割が有効になっている。
- 統合ゲートウェイの要件：
  - Windows Server 2012 R2 または Windows Server 2012 がインストールされている。
  - SC2012 VMM R2 UR6 コンソールまたは SC2012 VMM SP1 UR9 コンソール以降がインストールされている。
- \* SC2012 VMM R2 および SC 2012 VMM SP1 コンソールに共通のシステム要件：
  - Microsoft .NET バージョン 4.5 がインストールされている。
    - HTTP Activation がアクティブ化されている。
  - IIS 7.5 以降がインストールされている。
    - IIS の Windows 認証がインストールされている。
    - IIS の URL 認証が有効になっている。
  - IIS 6 メタベース互換性が有効になっており、そこで IIS 6 WMI 互換性および IIS 6 スクリプトツールが有効になっている。
- \* SC2012 VMM R2 コンソール固有のシステム要件：
  - SC2012 VMM SP1 から SC2012 VMM R2 にアップグレードしている場合は、Windows PowerShell 4.0 へのアップグレードが必要です。
  - Windows アセスメント & デプロイメントキット (ADK) 8.1 がインストールされている。

\* SC2012 VMM SP1 コンソール固有のシステム要件：

- SC2012 VMM SP1 アップデートロールアップ 5 以降にアップデートしている場合は、以下の点を考慮してください。SC2012 VMM コンソールへのアドインのインポート時にコンソールがクラッシュする場合があります。この問題についての情報と解決方法については、サポート技術情報、[support.microsoft.com/kb/2785682](http://support.microsoft.com/kb/2785682) の問題 5 を参照してください。このアップデートは、インストールされているアップデートロールアップのバージョンに関わらず、実行するようにしてください。
- Windows アセスメント & デプロイメントキット (ADK) 8.0 がインストールされている。
- 組織の PowerShell 実行ポリシーのガイドラインを検討し、ローカルマシンに有効な実行ポリシーが RemoteSigned として設定され、**統合ゲートウェイサービスアカウント**で Unrestricted として設定されていることを確認します。ポリシー設定の詳細に関しては、次の MSDN の記事を参照してください。

\* **PowerShell 実行ポリシー** : [technet.microsoft.com/en-us/library/hh847748.aspx](http://technet.microsoft.com/en-us/library/hh847748.aspx)

\* **PowerShell グループポリシー** : [technet.microsoft.com/library/jj149004](http://technet.microsoft.com/library/jj149004)

• 管理ポータル要件：

- Internet Explorer 10 以降が使用できる。
- Mozilla Firefox 30 以降が使用できる。
- Google Chrome 23 以降が使用できる。

## アプライアンスのダウンロード

SC2012 VMM 用 DLCI のインストールおよびセットアップを行うには、アプライアンス、統合ゲートウェイ、コンソールアドインの各コンポーネントをダウンロードしてインストールする必要があります。アプライアンスのダウンロード：

1. SC2012 用 DLCI を使用するためのライセンスがある場合は、デジタル資格情報ポータルから SC2012 VMM 用 DLCI をダウンロードし、ライセンスがない場合には、デルサポートチームに有効なライセンスについてお問い合わせください。  
アプライアンスのダウンロード、インストール、および[セットアップ](#)が終了したら、管理ポータルから統合ゲートウェイとコンソールアドインのダウンロードとインストールを行うことができます。
2. ダウンロードファイルを解凍して、.VHD ファイルとマニュアルを表示します。

## アプライアンスのセットアップ


開始する前に、アプライアンスをセットアップする Hyper-V について、次のことを確認してください。

- **仮想スイッチ** が設定済みで使用可能である。
- SC2012 VMM がセットアップされているシステムのユーザー資格情報。
- SC2012 VMM の完全修飾ドメイン名。
- 統合ゲートウェイの完全修飾ドメイン名およびユーザーの資格情報。

アプライアンスをセットアップするには、次の手順を実行します。

1. **Windows Server** の **Hyper-V マネージャ** で、**Hyper-V マネージャ** メニューから **操作** → **新規** → **仮想マシン** を選択します。
2. **開始する前に** で **次へ** をクリックします。

3. **名前と場所の指定** で、仮想マシンの名前を指定します。仮想マシンを別の場所に保存するには、**仮想マシンを別の場所に格納する** を選択し、**参照** をクリックして、新しい場所をスキャンします。
4. **メモリの割り当て** で、必要なメモリを割り当てます。最小 4096 MB が必要です。
5. **ネットワークの構成** の **接続** から、使用するネットワークを選択し、**次へ** をクリックします。
6. **仮想ハードディスクの接続** で **既存の仮想ハードディスクを使用する** を選択し、アプライアンス .VHD ファイルがあるの場所をスキャンし、その .VHD ファイルを選択します。
7. **概要** で指定した詳細を確認し、**完了** をクリックします。  
仮想マシンを作成した後は、アプライアンスを設定する必要があります。
8. プロセッサ計数値を 2 に設定します。プロセッサ計数はデフォルトで 1 に設定されています。プロセッサ計数を設定するには、アプライアンスを右クリックし、**設定** を選択します。**設定** で **プロセッサ** を選択し、**論理プロセッサの数** を 2 に設定します。
9. **Hyper-V マネージャー** メニューで DLCI 仮想マシンを選択し、次の手順を実行します。
  - a. **操作** → **開始** を選択します。
  - b. **操作** → **接続** を選択します。

 **メモ:** 選択した仮想ハードディスクでアプライアンス用に新しく作成した仮想マシンが、カーネルパニックの例外で起動に失敗した場合、その仮想マシンの設定を編集し、新しく作成した仮想マシンの設定を編集する方法でこの仮想マシンのダイナミックメモリオプションを有効にします。  
この仮想マシン用のダイナミックメモリオプションを有効にするには、アプライアンス仮想マシンを右クリックし、**設定** → **メモリ** → **ダイナミックメモリとチェック** と選択して、**ダイナミックメモリを有効にする** を選択します。
10. アプライアンスが起動したら、次の手順を実行します。
  - a. **localhost login** に admin と入力します。
  - b. **Enter new Admin password** にパスワードを入力します。
  - c. **Please confirm new Admin password** にパスワードを再入力し、**Enter** を押して続行します。
  - d. **DLCI アプライアンス** で **ネットワークの設定** を選択し、**Enter** を押します。
  - e. **アクションの選択** で **DNS 設定** を選択し、**Enter** を押します。
  - f. **DNS 設定** の **ホスト名** にホスト名を入力し、**OK** を押します。  
たとえば、**hostname.domain.com** などです。
  - g. **アクションの選択** で **保存して終了** を押します。
11. すべての管理システムの DNS にエントリがあることを確認します。
12. アプライアンスから、管理ポータル URL をメモします。
13. 統合ゲートウェイのコントリビュータアカウントを使用して、統合ゲートウェイをインストールする予定のシステムにログインします。  
ウェブブラウザで、管理者ポータル URL : <IP Address or hostname> (例 : https://dlciforvmm) にアクセスします。  
管理ポータルにログインすることにより、コンポーネントの統合ゲートウェイとコンソールアドインをダウンロードできます。  
  
初めて管理者ポータルにアクセスしている場合、管理者ポータルにログインするときに **セットアップと設定** ウィザードが表示されます。
14. **セットアップと設定** の ようこそ で、**次へ** をクリックします。
15. **ダウンロードとインストール** で次の操作を行い、**次へ** をクリックします。
  - a. **SC2012 VMM 用 DLCI 統合ゲートウェイのインストール** で **インストーラのダウンロード** をクリックし、インストーラを保存場所に保存します。
  - b. **SC2012 VMM 用 DLCI 統合ゲートウェイ** インストーラを実行します。
  - c. SC2012 VMM 用 DLCI 統合ゲートウェイの ようこそ ページで、**次へ** をクリックします。

- d. **ライセンス契約** で、**ライセンス契約の条件に同意します** を選択して **次へ** をクリックします。
- e. **ライセンス：オープンソースソフトウェア** で、オープンソース関連の情報を参照し、**次へ** をクリックします。
- f. **前提条件のステータス** で以下を行って、**次へ** をクリックします。

- 1. 最新の前提条件のステータスを表示するには、**前提条件のスキャン** をクリックし、ステータスを確認します。
- 2. 前提条件をインストールするには、**前提条件をインストール** をクリックします。
- g. **統合ゲートウェイ設定** で、統合ゲートウェイのサービスアカウントユーザーとポート番号の詳細を入力します。ステージングサーバーの場所を変更するには、**共有フォルダの選択** をクリックし、新しい場所をスキャンして、**次へ** をクリックします。

 **メモ:** 作成された共有フォルダに最低 10 GB のディスク空き容量があることを確認します。

アプライアンスと統合ゲートウェイ間での通信のためのポートを割り当てます。有効になるデフォルトポートは 8455 ですが、要件に応じて別のポート番号を設定することもできます。

統合ゲートウェイのサービスユーザーアカウントの **実行ポリシー** は **制限なし** に設定されています。

- h. デフォルトのインストールフォルダ、**VMM 用統合ゲートウェイ** が選択されています。場所を変更するには、**変更** をクリックして新しい場所をスキャンし、**次へ** をクリックします。
- i. **プログラムインストールの準備完了** で、**インストール** をクリックします。  
統合ゲートウェイのインストール中、次の共有ディレクトリが作成されます。

- DTK
- LCDriver
- ISO
- OMSA
- WIM

- j. インストールが完了したら、**終了** をクリックします。

- 16. **セットアップと設定** の **サーバー詳細** で、次の情報を入力してから **次へ** をクリックします。
  - a. SC2012 VMM サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) と、SC2012 VMM サーバーの管理者ユーザー資格情報。  
SC2012 VMM サーバーの管理者ユーザーは、SC2012 VMM のサービスアカウントにしないようにしてください。
  - b. 統合ゲートウェイがインストールされているサーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN)、統合ゲートウェイのサービスアカウントユーザー詳細、統合ゲートウェイの適切なポート番号 (デフォルトのポート番号は 8455)。

- 17. **適用** をクリックして、登録プロセスを完了します。

- 18. **オプションの設定とインストール** の **コンソールアドインのインストール** で、**インストーラのダウンロード** をクリックし、インストーラファイルを必要な場所に保存します。

- 19. コンソールアドインのインストールについては、**で SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインアドインでの作業を参照してください。** in the *Microsoft System Center 2012 Virtual Machine Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration ユーザーズガイド*.

## 統合ゲートウェイの変更

このオプションで変更できるのはパスワードのみです。ユーザー名やポート情報を編集することはできません。

SC2012 VMM 管理者ユーザーの資格情報を変更するには、ユーザーが Active Directory 内でパスワードを変更済みであることが前提条件となります。

統合ゲートウェイを変更するには、次の手順を実行します。

1. **SC2012 VMM 用 DLCI 統合ゲートウェイ** インストーラを実行します。
2. **プログラムメンテナンス** で **変更** を選択してから、**次へ** をクリックします。
3. パスワードを変更して、**次へ** をクリックします。
4. **プログラムの変更** ダイアログボックスで **インストール** をクリックします。
5. 変更タスクが完了したら **終了** をクリックします。

## 統合ゲートウェイの修復

統合ゲートウェイを修復するには、次の手順を実行します。

1. **SC2012 VMM 用 DLCI 統合ゲートウェイ** インストーラを実行します。
2. **プログラムメンテナンス** で **修復** を選択し、**次へ** をクリックします。
3. **修復の準備完了** で、統合ゲートウェイユーザーアカウントのパスワードを入力し、**インストール** をクリックします。
4. 修復タスクが完了したら、**終了** をクリックします。

## SC2012 VMM と統合ゲートウェイの資格情報の変更

SC2012 VMM 管理者の資格情報および統合ゲートウェイの資格情報は、管理ポータルから変更することができます。これは、連続するアクティビティであり、まず最初に統合ゲートウェイの資格情報を変更し、それから SC2012 VMM 管理者の資格情報を変更します。

統合ゲートウェイ管理者ユーザーの資格情報を変更するには、ユーザーが統合ゲートウェイインストーラを実行し、変更オプションを選択することによって、パスワードをすでに変更済みであることが前提条件となります。


SC2012 VMM 管理者ユーザーの資格情報を変更するには、ユーザーが Active Directory 内でパスワードを変更済みであることが前提条件となります。

統合ゲートウェイまたは SC2012 VMM の管理者の資格情報を変更するには、次の手順を実行します。

1. 管理ポータルで、**登録** をクリックします。
2. **SC2012 VMM の DLCI 統合ゲートウェイ** の下の **登録** で、**資格情報の変更** をクリックします。
3. パスワードをアップデートして、**保存** をクリックします。

## SC2012 VMM 用 DLCI のアップグレード

SC2012 用 DLCI のインストールおよびセットアップ後、SC2012 用 DLCI のサービスパックアップデートが使用可能である場合、この機能を使用してサービスパックアップデートをインストールすることができます。

 **メモ:** オンライン FTP アカウントを使用する場合は、デフォルトのアップデートソースのプロキシの詳細を編集して追加し、保存します。

### Service Pack のアップデートについて

SC2012 VMM 用 DLCI がリリースされた後、既存のアプライアンスへのアップグレードまたは拡張機能として使用可能な、重要な欠陥の修正または機能の追加を共有する必要があります。

- Service Pack ファイルは、任意の HTTP サーバーに配置して、Service Pack のファイルを使用してアップデートを行なうことができます。
- これらの Service Pack を段階的に適用することができます。ただし、一度適用した後に元に戻すことはできません。
- この Service Pack は累積的です。つまり、最新の Service Pack では以前のすべてのリリースからの修正が含まれています。

SC2012 VMM 用 DLCI では、次の 2 タイプの Service Pack が提供されています。

- アプライアンス Service Packs
- インフラ Service Packs

### アプライアンス Service Pack およびインフラ Service Pack のダウンロード

デジタル資格情報サイトから Service Pack をダウンロードするための前提条件として、有効なサブスクリプションが要求されます。

インフラ Service Pack は、無料で利用可能です。

Service Pack をダウンロードするには、次の手順を実行します。

1. URL ([dell.com/support/licensing/us/en/19/Lkm/Index](http://dell.com/support/licensing/us/en/19/Lkm/Index)) からデジタル資格情報ポータルにログインします。
2. **使用可能なソフトウェアのダウンロード** を選択し、Dell Lifecycle Controller Integration for Microsoft System Center Virtual Machine Manager を選択して、**表示** をクリックします。
3. Service Pack をダウンロードします。

## Service Pack アップデートの前提条件

アップグレードを開始する前に、次の前提条件を完了します。

1. 実行中のジョブがないことを確認します。実行中のジョブがある場合、ジョブが完了するまで待ちます。
2. SC2012 VMM 用 DLCI 仮想マシンをバックアップします。詳細に関しては、Microsoft のマニュアルを参照してください。

## Service Pack アップデートのリポジトリへのコピー

ダウンロードした Service Pack を配置するには、リポジトリが必要です。  
リポジトリを準備するには、次の手順を実行します。

1. サービスパックファイルを直接 HTTP サーバーに配置します。
2. ダウンロードした Service Pack をダブルクリックして、指定した場所にファイルを解凍します。
3. HTTP サイトに解凍されたファイルをコピーします。

## リポジトリ URL 情報の入力

URL 情報を入力するには、次の手順を実行します。

1. **DLCI 管理ポータル – SC2012 VMM** で、**設定** → **サービスパックアップデート** を選択します。
2. リポジトリ URL に、**http://<servername>:<portname>/<repository path>** の形式で URL 情報を入力し、必要に応じてプロキシサーバー詳細を入力してから、**保存** をクリックします。

## Service Pack アップデートのインストール

リポジトリの URL 情報が使用可能であり、**Service Pack アップデート** ページに含まれていることを確認します。詳細に関しては、「[リポジトリ URL 情報の入力](#)」を参照してください。

Service Pack アップデートをインストールするには、次の手順を実行します。

1. Service Pack が HTTP サイト内に置かれたら、**DLCI 管理ポータル – SC2012 VMM** → **設定** → **Service Pack アップデート** で、**アップデートのチェック** をクリックします。  
SC2012 VMM 用 DLCI については、既存のバージョンとリポジトリ内で使用可能なサービスパックバージョンが表示されます。  
  
必要に応じて、リリースノートを表示することができます。
2. **適用** をクリックします。  
アップグレード処理が完了したら、SC2012 VMM コンソール用 DLCI を閉じて、Internet Explorer のキャッシュをクリアします。

インストール後に、次のタスクを実行します。

Service Pack のアップデートを確認するには、次の手順を実行します。


1. 管理ポータルの **バージョン情報** で、Service Pack のアップデートバージョンの詳細を表示します。

2. 詳しくは、管理ポータルで、**設定** → **ログ** を選択します。
3. **upgradelogs** ディレクトリで Service Pack のアップグレードのログファイルを表示またはダウンロードするには、<**Service Pack バージョン番号**> ディレクトリ（例えば、1.0.1.590 ディレクトリ）を選択して表示するか、Service Pack のアップグレードのログファイルをダウンロードします。
4. Service Pack のアップデートに失敗した場合は、**dell.com/support** にお問い合わせください。

Service Pack のアップデートが完了したら、統合ゲートウェイをバージョン 1.1 にアップグレードする必要があります。

統合ゲートウェイをバージョン 1.1 にアップグレードするには次の手順を実行します。

**前提条件：**作成された共有フォルダに最低 10 GB のディスク空き容量があることを確認します。

 **メモ：**ディスクに 10 GB の空き容量がない場合、インストールは警告メッセージを表示した状態で続行します。ただし、オペレーティングシステムの導入およびファームウェアのアップデートが失敗する場合があります。

1. 管理者ポータルから、統合ゲートウェイのインストーラをダウンロードします。
2. **SC2012 VMM 用 DLCI 統合ゲートウェイ** インストーラを実行します。
3. アップグレードを求めるメッセージで、**はい** をクリックします。
4. SC2012 VMM 用 DLCI 統合ゲートウェイの ようこそ ページで、**次へ** をクリックします。
5. **ライセンス契約** で、**ライセンス契約の条件に同意します** を選択して **次へ** をクリックします。
6. **ライセンス：オープンソースソフトウェア** で、オープンソース関連の情報を参照し、**次へ** をクリックします。
7. **ウェブサービス設定** で、統合ゲートウェイのサービスアカウントユーザーとポート番号の詳細を入力します。ステージングサーバーの場所を変更するには、**共有フォルダの選択** をクリックし、新しい場所をスキャンして、**次へ** をクリックします。

アプライアンスと統合ゲートウェイ間での通信のためのポートを割り当てます。有効になるデフォルトポートは 8455 ですが、要件に応じて別のポート番号を設定することもできます。

統合ゲートウェイのサービスユーザーアカウントの **実行ポリシー** は **制限なし** に設定されています。

8. **宛先フォルダ** にはデフォルトのインストールフォルダが選択されています。場所を変更するには、**変更** をクリックして新しい場所をスキャンし、**次へ** をクリックします。
9. **プログラムインストールの準備完了** で、**インストール** をクリックします。
10. インストールが完了したら、**終了** をクリックします。

**事後条件：**このバージョンの SC2012 VMM 用 DLCI にアップグレードした後、新しい機能を使用するには以前のバージョンで使用されていたサーバーを再検出します。

## アプライアンスのアンインストール

アプライアンスをアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. 統合ゲートウェイを削除します。詳細については、[統合ゲートウェイの削除](#)を参照してください。
2. アプライアンスを削除します。詳細に関しては、「[アプライアンスの削除](#)」を参照してください。
3. アプライアンス固有のアカウントを削除します。詳細に関しては、「[その他のアンインストールタスク](#)」を参照してください。



**メモ:** Dell Connections License Manager (DCLM) への依存関係が削除されました。したがって DCLM をアンインストールするには、『*Dell Connections Licence Manager Installation Guide*』 (Dell Connections Licence Manager インストールガイド) を参照してください。

### 統合ゲートウェイの削除

統合ゲートウェイをインストールしたシステムから統合ゲートウェイを削除する必要があります。統合ゲートウェイをアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. コントロールパネルで **プログラム → プログラムのアンインストール** をクリックします。
2. **SC2012 VMM 用 DLCI 統合ゲートウェイ** を選択し、**アンインストール** をクリックします。

### アプライアンスの削除

アプライアンスを削除するには、次の手順を実行します。

1. **Windows サーバー** の **Hyper-V マネージャー** でアプライアンスファイルを右クリックし、**オフにする** をクリックします。
2. アプライアンスファイルを右クリックし、**オフにする** をクリックします。

### その他のアンインストール手順

これには、アプライアンス固有の **RunAsAccounts** の削除、および **DLCI アプリケーションプロファイルの削除** が含まれます。

#### アプライアンス固有の RunAsAccounts の削除

アプライアンス固有の RunAsAccounts を SC2012 VMM コンソールから削除するには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM コンソールで、**設定** をクリックします。
2. **RunAsAccounts** をクリックします。
3. アカウントのリストから、アプライアンス固有のアカウントを削除します。

アプライアンス固有のアカウントには、先頭に **Dell** が付いています。

## **DLCI アプリケーションプロファイルの削除**

SC2012 VMM コンソールで、**ライブラリ** → **プロファイル** → **アプリケーションプロファイル** を選択し、**DLCI-VMM アドイン登録プロファイル** を削除します。

# デルサポートサイトからの文書へのアクセス

必要なドキュメントにアクセスするには、次のいずれかの方法で行います。

- 次のリンクを使用します。
  - すべての Enterprise システム管理マニュアル – [Dell.com/SoftwareSecurityManuals](https://www.dell.com/support/manuals)
  - OpenManage マニュアル – [Dell.com/OpenManageManuals](https://www.dell.com/support/manuals)
  - リモートエンタープライズシステム管理マニュアル – [Dell.com/esmanuals](https://www.dell.com/support/manuals)
  - OpenManage Connection エンタープライズシステム管理マニュアル – [Dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement](https://www.dell.com/support/manuals)
  - Serviceability Tool マニュアル – [Dell.com/ServiceabilityTools](https://www.dell.com/support/manuals)
  - OpenManage Connections クライアントシステム管理マニュアル – [Dell.com/DellClientCommandSuiteManuals](https://www.dell.com/support/manuals)
- Dell サポートサイトから、
  - a. [Dell.com/Support/Home](https://www.dell.com/support/home) に移動します。
  - b. **製品の選択** セクションで、**ソフトウェアとセキュリティ** をクリックします。
  - c. **ソフトウェアとセキュリティ** グループボックスで、次の中から必要なリンクをクリックします。
    - **エンタープライズシステム管理**
    - **リモートエンタープライズシステム管理**
    - **Serviceability Tools**
    - **Dell Client Command Suite**
    - **接続クライアントシステム管理**
  - d. ドキュメントを表示するには、必要な製品バージョンをクリックします。
- 検索エンジンを使用します。
  - 検索 ボックスに名前および文書のバージョンを入力します。